令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	人文科学概論（コミュニケーションを含む）
科目担当者	平瀬芳美
単位数・年間時間数	2単位・30時間
授業の方法	講義
使用教科書	鍼灸臨床における医療面接
使用参考書	なし
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。定着度の確認は、通常授業の中での質疑応答によって行います。
科目の概要と学習の目的	この科目では、主に医療接遇について学びます。 （１）医療面接について（接遇実技を含む） （２）接遇について（外部講師による特別授業を含む） （３）上記以外の内容（例：パソコンの基礎知識、文芸等） ３については、クラスの希望に基づいて実施します。
授業の展開	授業は教科書や補助資料を中心に進めますが、あえて資料を出さない事もあります。毎回冒頭に前回の授業の確認をします。実技は、事前説明やオリエンテーションを経て実施します。なお、内容・実施順・時間配分・評価方法等は、実情に応じて変更する事があります。
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。

授業内容（予定）	合計 32時間
前期＜17週＞	前期計　17
1　人文科学概論オリエンテーション	1
2　医療面接（解説編）	
（1）復習（実践編、墨字:18～69頁、DAISY:12～44頁、点字：第1巻）	1
（2）理想的な医療面接（墨：72～95、D：48～65、点：第2巻1～47）	1
（3）医療面接のコミュニケーション（墨:97～111、D:66～76、点：48～78）	1
（4）コミュニケーションの実際（墨:112～117、D:76～80、点：78～90）	1
（5）ことば遣い（待遇表現、敬意表現）（墨:117～122, D:80～83, 点90～99）	2
（6）方言、身だしなみ、環境整備（墨:123～128、D:84～87、点99～108）	2
（7）質問法（墨:131～140、D:89～94、点：115～131）	2
（8）傾聴（墨:141～164、D:96～111、点：133～173）	2
3　接遇（外部講師による特別授業を含む）　＊コミュニケーション（4時間）	4
4　期末試験	
後期＜15週＞	後期計　15
1　医療面接（続き）	
（1）患者の解釈モデル（墨:166～189、D:113～130、点：第3巻1～47）	2
（2）患者への説明、教育（墨:192～206、D:131～141、点：52～76）	1
（3）患者への対応（セクハラ等）（墨:207～228, D:142～158, 点：79～122）	2
（4）医療面接学習編（墨:232～268、D:162～181、点：第4巻）	2
3　接遇実技（臨床実習における患者対応）　＊コミュニケーション（6時間）	
（1）シナリオ確認	1
（2）オリエンテーション、リハーサル	3
（3）患者対応ロールプレイ	1
（4）反省、フィードバック	1
4　その他	2
5　期末試験	

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	社会科学概論
科　目　担　当　者	河原塚 由紀
単位数・年間時間数	2単位・30時間
授　業　の　方　法	講義
使　用　教　科　書	なし
使　用　参　考　書	なし
評　価　方　法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	コンピュータの活用を通じて、視覚障害者の文書処理に活用し、各科目の学習に役立てるとともに、情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を習得する授業です。
授　業　の　展　開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業はカルテ作成を目標において進め、各項目ごとに習得度を確認します。習得が不十分な場合は可能な限り繰り返し練習することで理解を深めます。
自己学習の進め方	1週間に1回の授業ですので、授業のみでの技術の習得は難しいこともあります。そのため利用者の皆さんには技術がより早く定着できるよう、1回につき短時間でも良いので居室または学習パソコン室において実際にパソコンを使用して繰り返しの練習を期待します。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　17　週　＞	前期計　17
パソコンによる情報処理	
①ガイダンス	1
②パソコンの仕組み	1
③キーボード操作と音声ソフト	8
④パソコンソフトの実際	3
⑤パソコンの活用	3
期末試験	
期末試験の講評	1
後　期　＜　15　週　＞	後期計　15
パソコンの理療への活用	
①理療におけるパソコン利用の目的と意義（カルテ作成）	12
②理療援助の支援システム	1
③その他の支援システム	1
期末試験	
期末試験の講評	1

※担当係記入欄	実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に〇印	

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程２年
科　　目	自然科学概論
科目担当者	武田和男
単位数・年間時間数	2単位・30時間
授業の方法	講義
使用教科書	印刷されたプリントや教室実験・ビデオ視聴
使用参考書	「空気の発見」「発明発見物語」「生命４６億年の旅」「地球大進化」
評価方法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	原子と分子が生命現象の基本構造を形成しその変化によって生命活動が維持されており、原子レベルから地球の生命活動があることを理解し、地球史レベルの時間の流れと生命の進化を探ります。
授業の展開	毎時間印刷され用意されたテキストの音読による理解と、ビデオ教材の視聴、実験により授業を展開します。
自己学習の進め方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。

授業内容（予定）	合計 32時間
前期＜17週＞	前期計　17
空気の発見(ガリレオの実験・マグデブルグの半球実験)	3
老けない人の免疫力	3
ファーブル昆虫記	2
免疫革命	3
日本の味醤油	1
ＤＶＤツバルの海と沈む島	3
歌う生物学	1
テスト対策	1
期末試験	
後期＜15週＞	後期計　15
ワタムシ	1
地質年代について	1
地球大進化１～３	2
まとめ	1
地球大進化４～６	3
まとめ	1
種の起源について	1
地球事変（酸素大発生）	1
生命大躍進（脳の進化）	1
ミクロの大冒険（誕生/細胞/脳）	1
ミクロの大冒険（細胞が老いとたたかう）	1
テスト対策	1
期末試験	

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	保健体育
科　目　担　当　者	新　八吉
単位数・年間時間数	1単位・30時間
授　業　の　方　法	実技
使　用　教　科　書	なし
使　用　参　考　書	なし
評　価　方　法	観察記録法により評価します。
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な健康・安全や身体運動について学び、健康の保持増進のため運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得する授業です。
授　業　の　展　開	授業の冒頭では前回の授業の復習をし、また授業では各種目の完成を目指します。毎回習得度を確認し、不十分であれば繰り返し練習することで理解を深めます。
自己学習の進め方	授業でスムーズに身体を動かすことができるように、またケガの予防のため日頃より軽くトレーニングを行ってください。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　17　週　＞	前期計　17
フライングディスク	4
陸上競技	2
球技	4
ストレッチ体操	3
レクリエーション	3
講義	1
後　期　＜　15　週　＞	後期計　15
陸上競技	4
球技	2
レクリエーション	1
ボッチャ	3
講義	1
ターゲットバードゴルフ	4

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	生理学Ⅱ
科目担当者	加藤　麦
単位数・年間時間数	3単位・90時間
授業の方法	講義
使用教科書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編　人体の構造と機能生理学第3版
使用参考書	東洋療法学校協会編　生理学
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストや授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。
科目の概要と学習の目的	生理学は体の正常な働きについて学習する科目です。生理学Ⅱでは内分泌、生殖・成長と老化、神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協調について学習します。正常な体の働きを理解しているからこそ、異常（疾病）を理解することができるようになります。また、あはき施術の作用機序を理解するための基礎知識ともなる重要な科目です。
授業の展開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や2年生以降で学習する臨床系の科目との関連性を意識した知識も教授します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜17週＞	前期計　51
第8章　内分泌	18
第9章　生殖・成長と老化	8
第10章　神経	24
期末試験	
講評	1
後期＜15週＞	後期計　45
第11章　筋	8
第12章　運動	10
第13章　感覚	14
第14章　生体の防御機構	8
第15章　身体活動の協調	4
期末試験	
講評	1

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に〇印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	病理学概論
科目担当者	小原恵子
単位数・年間時間数	2単位・60時間
授業の方法	講義
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）改訂第7版　第1巻
使用参考書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）（病理）共用　改訂第7版　第2巻
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。
科目の概要と学習の目的	病理学とは、疾病の原因を追及し病的な変化を明らかにし、疾病の成り立ち・症状・経過・死の原因などを究明する学問です。 施術者として必要な疾病の本態や各病変の概要について学習し、施術に応用する能力と態度の修得を目的とします。
授業の展開	授業は教科書とまとめ資料を中心に進めます。 授業の冒頭では前回の復習、授業の終了前にはその授業の要点をまとめます。 授業進度に合わせ発問を交えて知識の確認をします。 試験前には国家試験過去問題を使用して問題演習を行います。
自己学習の進め方	授業後、教科書とまとめ資料の内容を確認し理解を深めてください。 疑問がある場合は、担当教官に質問し確認してください。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期＜17週＞	前期計　34
ガイダンス説明	1
第1編　病理学の基礎	3
第2編　病因	
内因	4
外因	10
第3編　病変	
循環障害	6
退行性病変	5
進行性病変	2
まとめと演習問題	2
期末試験	
期末試験講評	1
後期＜15週＞	後期計　30
第3編　病変	
進行性病変	3
炎症	9
腫瘍	9
免疫異常	6
まとめと演習問題	2
期末試験	
期末試験講評	1

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	臨床医学総論
科目担当者	加藤　麦
単位数・年間時間数	3単位・90時間
授業の方法	講義
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編　生活と疾病Ⅱ臨床医学総論
使用参考書	東洋療法学校協会編　臨床医学総論
評価方法	前期・後期の期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストや授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。
科目の概要と学習の目的	この科目は診察と治療の概要を学びます。具体的には診察方法、診察所見、症状、検査、治療について学びます。この科目の知識は、患者の訴える症状や所見、検査結果から原因となる病態や疾患を推論する能力となり、実際の臨床では診察から診断へ結びつけるための知識となります。国家試験だけでなく、臨床でも欠かせない知識となる重要な科目です。
授業の展開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や生理学、臨床医学各論など他の科目との関連性についても説明します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。あはき臨床で必要な検査については実習形式でも行います。
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜17週＞	前期計　51
第1章　診察の概要	2
第2章　診察の方法	
第1節　医療面接	2
第2節　視診	20
第3節　打診	2
第4節　聴診	4
第5節　触診	6
第6節　測定法	10
第7節　神経系の診察	4
期末試験	
講評	1
後期＜15週＞	後期計　45
第2章　診察の方法	
第7節　神経系の診察	12
第8節　その他の身体機能の診察法	10
第3章　臨床検査	12
第4章　治療法	8
第5章　臨床心理	2
期末試験	
講評	1

※担当係記入欄	実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印	○

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	理療臨床医学各論（病態生理学を含む）
科目担当者	山本　浩二
単位数・年間時間数	3単位・90時間
授業の方法	講義
使用教科書	盲学校教科書編纂委員会編　生活と疾病Ⅲ臨床医学各論第4版
使用参考書	
評価方法	各学期末に筆記試験を実施し、その得点を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。
科目の概要と学習の目的	この科目では、現代医学の立場からみた系統別（主に運動器・神経系）疾患の病態生理及び診断、治療に関する基礎的知識について学びます。また施術者として的確な病態把握をし施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は教科書に沿って進め、要点を整理し、既習科目と関連付けられるように説明していきます。
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試験過去問題集を何度も回答して問題に慣れましょう。また、基礎となる解剖学、生理学の復習を行い、わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜17週＞	前期計　51
1　整形外科疾患の病態生理及び診断、治療　※38時間うち14時間：病態生理学を含む	
①関節疾患	8
②骨代謝性疾患・骨腫瘍	4
③筋・腱疾患	2
④形態異常	4
⑤脊椎疾患	8
⑥脊髄損傷	2
⑦外傷	10
⑧その他の整形外科疾患	2
2　神経疾患の病態生理及び診断、治療　※8時間うち3時間：病態生理学を含む	
①脳血管疾患	6
②感染性疾患及び脱髄性疾患	2
復習、その他	3
期末試験	

後　期　＜　15　週　＞	後期計　45
2　神経疾患の病態生理及び診断、治療　※前期続き　※30時間うち10時間：病態生理学を含む	
③脳脊髄腫瘍	2
④変性疾患	6
⑤認知症	4
⑥筋疾患	3
⑦運動ニューロン疾患	1
⑧末梢神経疾患	7
⑨神経痛	3
⑩頭痛	4
3　一般外科（病態生理及び診断、治療）　※うち2時間：病態生理学を含む	6
4　麻酔科・ペインクリニック（病態生理及び診断、治療）　※うち1時間：病態生理学を含む	3
復習、その他	6
期末試験	

※担当係記入欄	実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に〇印	

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	東洋医学概論Ⅱ
科目担当者	小原恵子
単位数・年間時間数	3単位・90時間
授業の方法	講義
使用教科書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第6版　第2刷　オリエンス研究会　著
使用参考書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第6版　付録版　オリエンス研究会　著
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。
科目の概要と学習の目的	あマ指師、鍼灸師として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度の修得を目的とします。
授業の展開	授業は教科書とまとめ資料を中心に進めます。授業の冒頭では前回の復習、授業の終了前にはその授業の要点をまとめます。授業進度に合わせ発問を交えて知識の確認をします。 試験前には国家試験過去問題を使用して問題演習を行います。
自己学習の進め方	授業後、教科書とまとめ資料の内容を確認し理解を深めてください。 疑問がある場合は、担当教官に質問し確認してください。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜17週＞	前期計　51
1年次の総復習	3
第3編　東洋医学の疾病観	
第1章　病因論	8
第2章　病機	1
第3章　病理・病証論	23
第４編　診断論	
第1章　診察法の概要	1
第2章　四診法	13
まとめと問題演習	1
期末試験問題	
期末試験の講評	1
後期＜15週＞	後期計　45
第4編　診断論	
第3章　証の立て方	32
第5編　治療論	
第1章　東洋医学における治療原則	2
第2章　鍼灸治療	6
第3章　日中の鍼灸医学の特徴	1
第4章　手技療法	1
第5章　薬物療法	1
まとめと問題演習	1
期末試験	
期末試験の講評	1

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	経絡経穴概論Ⅱ
科目担当者	山本　浩二
単位数・年間時間数	2単位・60時間
授業の方法	講義
使用教科書	東洋療法学校協会編　新版　経絡経穴概論（拡大版第2版）
使用参考書	
評価方法	各学期末に筆記試験を実施し、その得点を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。
科目の概要と学習の目的	経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。
自己学習の進め方	十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試験過去問題集を何度も回答して問題に慣れましょう。わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期＜17週＞	前期計　34
1　経絡経穴の概要	
①十二正経	2
②要穴の概要（応用含む）	14
③取穴法	2
2　経穴	
②十二正経の経穴名と部位	12
復習、その他	4
期末試験	
後期＜15週＞	後期計　30
3　経絡経穴の概要　※前期余り	
①奇経八脈	6
②要穴の概要（八脈交会穴）	3
4　組合せ穴	3
5　奇穴	8
6　経絡経穴の現代医学的研究	3
復習、その他	7
期末試験	

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	あん摩マッサージ指圧応用実習Ｉ（臨床実習前試験等を含む）
科目担当者	古賀英樹・佐藤浩輔
単位数・年間時間数	4単位・120時間
授業の方法	実技
使用教科書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編　保健理療基礎実習　第２版
使用参考書	国立障害者リハビリテーションセンター理療教育課編 あマ指基礎実習教官用指導マニュアル
評価方法	前期、後期ともに学期末試験と通常授業内での状況で評価します。評価項目と評価基準は事前に通知します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	基礎実習で養成された技能をより確かなものに成長させて対患者を想定し、症状に応じた手技療法が大まかに組み立てられることを学習の目的とします。前期中頃までは先ず１年次の復習から始め腹部の術式を学習します。その後、後期の前半にかけて一定時間内に全身の施術ができるような術式を学習します。後期以降では症状(主に肩や腰)に応じて診察、治療方針の設定、手技療法の選定、評価法を授業課題として基礎的臨床能力を育成し、学年末には、あマ指臨床実習を実施します。
授業の展開	授業の冒頭などで授業の課題を提示します。実習の授業ですから、指導を受ける時間と利用者同士でペアを組んで自己研鑽する時間があります。前者ではモデル役の利用者に施術しますので積極的に手を触ったり、聞いたりしてください。後者では漫然と練習するのではなく、気づきを求めて技能の修練をしてください。
自己学習の進め方	この実習には、解剖学、理療臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論等の内容も含まれています。特に診察に関連する解剖学的構造や疾患の概念、症状、そして徒手検査法の目的及び手順などについて復習をして実習に臨んで下さい。さらに技術の向上をはかるためには繰り返し練習することが必要となる科目です。そのため、あん摩合同補習授業(通称:あん摩クラブ)等を積極的に活用して授業時間外に少しでも多く練習時間を確保して下さい。

授業内容（予定）	合計 128時間
前期　＜　17　週　＞	前期計　68
基礎実習の総復習（年間予定・手洗い・タオルワークを含む）	11
按腹	10
全身への施術	36
症状別あマ指診療の基礎	10
１．肩関節痛	－
期末試験	
試験の講評	1
後期　＜　15　週　＞	後期計　60
症状別あマ指診療の基礎	20
２．腰痛	－
３．その他	－
臨床実習に向けた全身施術（臨床実習室の環境認知を含む）	25
臨床実習前試験等	10
臨床実習	4
期末試験	
試験の講評	1

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	はりきゅう応用実習Ⅰ（臨床実習前試験等を含む）
科目担当者	加藤　麦
単位数・年間時間数	4単位・120時間
授業の方法	実技
使用教科書	オリエンス研究会　鍼灸実技　基礎と臨床
使用参考書	
評価方法	前期・後期とも学期末試験（80%）と平常点（20%）で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は授業における意欲と態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。
科目の概要と学習の目的	この科目では、現代医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。また、鍼通電療法や小児鍼、円皮鍼など応用的な鍼施術を体験することで、患者の状況に合わせた施術ができる知識と技術を身につけます。
授業の展開	鍼施術を中心に行いますが、必要に応じて灸施術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきますが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。
自己学習の進め方	現代医学的な病態把握に基づく施術をするためには、解剖学、臨床医学総論・各論、経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。

授業内容（予定）	合計 124時間
前期＜17週＞	前期計　66
1. オリエンテーション	2
2. 基本刺鍼の復習	6
3. 身体各部への刺鍼（上肢、下肢、腰背部、頸肩部）	16
4. 鍼施術による有害事象とリスク管理	2
5. 全身への施術	16
6. 臨床入門	5
7. 主な症状に対する診察と施術	
(1) 腰痛	18
8. 期末試験	
9. 講評	1
後期＜15週＞	後期計　58
1. 主な症状に対する診察と施術	
(2) 頸肩腕痛（こりを含む）	12
(3) 肩関節痛・肘関節痛	10
(4) 股関節痛・膝関節痛	8
2. 特殊鍼法	4
3. 臨床シミュレーション　＊臨床実習前試験等	20
4. 物療機器の体験	2
5. 所外施術所見学	1
6. 期末試験	
7. 講評	1

※担当係記入欄	実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印	○

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程２年
科　　目	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）
科目担当者	関矢稔・佐藤浩輔
単位数・年間時間数	２単位・６０時間
授業の方法	実技
使用教科書	
使用参考書	
評価方法	前期・後期の学期末に行う実技試験で評価します。後期の評価は臨床前試験の課題を含みます。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	１年次に習得したあん摩の基本手技のさらなる習熟と「圧迫揉捏」等の応用的手技を習得し、肩こりや腰痛など遭遇頻度の高い愁訴に対する効果的な施術を行う能力の獲得を目指します。後期には、3学年での臨床実習に備え、患者の主訴から行うべき徒手検査を選択し、それに基づく適切な施術ができることを目指します。
授業の展開	実技指導において、目視での確認が難しい方には教官の手や体に触れてもらいながらその動きをイメージしていただきます。また随時、教官が被術者となり各自の技術を点検・修正しながら習熟を目指していきます。
自己学習の進め方	安定した押圧動作を行うため、日頃から基礎体力訓練により「押す」ための筋力を鍛えておくことをお薦めします。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期＜17週＞	前期計　34
ガイダンス説明	2
基本動作の練習	10
側臥位患者への施術	20
期末試験	1
期末試験の講評	1
後期＜15週＞	後期計　30
腹臥位患者への施術	20
運動操作	2
臨床前試験	6
期末試験	1
期末試験の講評	1

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に〇印

令和２年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程2年
科　　目	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）
科目担当者	藤原太樹　（助手　松田さおり）
単位数・年間時間数	2単位・60時間
授業の方法	実技
使用教科書	オリエンス研究会　鍼灸実技　基礎と臨床
使用参考書	
評価方法	前期・後期とも学期末試験（80%）と平常点（20%）で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は授業態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。
科目の概要と学習の目的	この科目では、東洋医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。特に脈診と腹診、原穴・兪穴・募穴診などの東洋医学的診察から中医学的弁証論治と経絡治療の基礎について学びます。
授業の展開	灸施術を中心に行いますが、必要に応じて鍼施術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきますが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。
自己学習の進め方	東洋医学的な病態把握に基づく施術をするためには、東洋医学概論と経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期＜17週＞	前期計　34
1. オリエンテーション	2
2. 基本施灸の復習	6
3. 背部兪穴の取穴と施灸	8
4. 東洋医学的診察と施術の概要	4
5. 脈状診	6
6. 腹診	6
7. 期末試験	
8. 講評	2
後期＜15週＞	後期計　30
1. 兪募穴、原穴治療	6
2. 比較脈診	6
3. 基本4証（肝虚、脾虚、肺虚、腎虚）の取穴と刺鍼	6
4. 臨床推論による弁証論治（婦人科、運動器、消化器、呼吸器） ＊臨床実習前試験等	8
5. 所内臨床実習見学	2
6. 期末試験	
7. 講評	2

※担当係記入欄　実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印